

基本計画書

事前相談事項	記入欄	備考
計画の区分	研究科の専攻の設置	
フリガナ者	コクリツダイガクホウジン オオサカダイガク 国立大学法人 大阪大学	
フリガナ名称	オオサカダイガクダイガクイン 大阪大学大学院 (Graduate School of Osaka University)	
大学本部の位置	大阪府吹田市山田丘1番1号	
大学の目的	懐徳堂と適塾の学風を継承し、自由闊達で批判的な精神をもって真理と合理性を追究することにより、本学を知の創造の場として世界第一流の大学とすることを目指す。創学以来の「研究第一主義」をモットーとし、第一線の研究成果と実証精神をもって教育を行う。学問と研究を前にしては、優れたものを進んで認め、分野間の障壁をなくし、教員と学生の立場を越えて、対話と討論を重ね、より一層の高みを目指す。グローバル化の進む今日、国際社会の諸問題に多元的に取り組み、有用な人材を養成する。得られた教育研究の成果を世界的基準によって判断し、社会にその価値を問い、利用に供する。大学を社会に開き地域に貢献するとともに、自由と人権を尊重し、深い国際的な教養に基づいた学術交流を通じて世界の国々に貢献する。このようにして、教育・研究・社会貢献を通して国民と社会の信託に応えることにより、大阪大学の「地域に生き世界に伸びる」という理念を実現する。	
新設学部等の目的	【生物学専攻】 博士前期課程では、120年にわたる大阪大学工学部の醸造学・醗酵工学・応用生物学分野の伝統の上に、物理学、化学、生物学、化学工学、情報科学の幅広くかつ深い修得のもと、様々な生物のもつ本質的なシステムとその動作原理を理解し、それらの工学的体系化と応用を通して人類社会の安定と福利に広く貢献できる豊かな人格と教養、倫理観を持って活躍する研究者・技術者を育成する。博士後期課程では、我が国の伝統ある生物工学（バイオテクノロジー）分野の発展を踏まえた上で、物理学、化学、生物学、化学工学、情報科学の幅広くかつ深い修得のもと、様々な生物のもつ本質的なシステムとその動作原理を理解し、それらの工学的体系化と応用を通して、新たな取り組みに創造的・独創的に挑戦し、人類社会の安定と福利に広く貢献できる豊かな人格と教養、倫理観を持った生物工学分野のグローバルリーダーとして活躍する研究者・技術者を養成する。 博士前期課程では、（１）物理学、化学、生物学、化学工学、情報科学の幅広くかつ深い理解のもと、様々な生物のもつ本質的なシステムとその動作原理を理解し活用するための高度な専門知識と技能の習得、（２）我が国における生物工学分野の発展を踏まえ、豊かな人格と教養、倫理観を持って、社会・産業界が直面する諸問題について、生物工学的視点および関連分野の理解のもと、解決に向けて自ら得た知識を活用する能力、（３）生物工学分野の工学的体系化と応用を通して、他分野との連携・協働をおこない、世界に通用する人類社会の安定と福利に広く貢献できる能力、を習得させる。博士後期課程では、（１）物理学、化学、生物学、化学工学、情報科学の幅広くかつ深い修得のもと、様々な生物のもつ本質的なシステムとその動作原理を理解し、これを用いて人類社会の安定と福利に貢献できる先端的な専門知識と技能の習得、（２）我が国における生物工学分野の発展を踏まえ、豊かな人格と教養、倫理観を持って、社会・産業界が直面する諸問題について、生物工学および関連分野の連携のもと、新たな分野を開拓・展開し、課題解決に向けて自ら得た知識を活用する能力、（３）生物工学分野の工学的体系化と応用を通して、他分野との連携・協働をおこない、生物工学（バイオテクノロジー）分野のグローバルリーダーとして人類社会の安定と福利に広く貢献できる能力、を習得させる。 博士前期課程では、博士後期課程への進学、民間企業（製造業（化学、製薬、食品、醸造、その他）、や情報通信業、学術研究・専門技術サービス業など）、教育研究機関に就職し、国際社会で活躍することが期待される。博士後期課程では、大学・研究機関、民間企業（製造業（化学、製薬、食品、醸造、その他）、や情報通信業、学術研究・専門技術サービス業など）、教育研究機関、さらには公共・官公庁に就職し、技術者・研究者として、国際社会でリーダーシップをとって活躍することが期待される。	

新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 工学部
	工学研究科 [Graduate School of Engineering]	人	人	年次 年	人				
	生物工学専攻 (博士前期課程) [Division of Biotechnology]	2	63	-	126	修士(工学) 【Master of Engineering】	令和2年4月 第1年次	大阪府吹田市山田丘 2番1号	
	生物工学専攻 (博士後期課程) [Division of Biotechnology]	3	12	-	36	博士(工学) 【Doctor of Philosophy in Engineering】	令和2年4月 第1年次		
	計		75	-	162				
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、名称変更等)		○研究科の専攻の設置 工学研究科 応用化学専攻 博士前期課程 (97) (令和元年6月事前伺い予定) 応用化学専攻 博士後期課程 (26) (令和元年6月事前伺い予定) 物理学系専攻 博士前期課程 (72) (令和元年6月事前伺い予定) 物理学系専攻 博士後期課程 (19) (令和元年6月事前伺い予定) 機械工学専攻 博士前期課程 (96) (令和元年6月事前伺い予定) 機械工学専攻 博士後期課程 (23) (令和元年6月事前伺い予定) マテリアル生産科学専攻 博士前期課程 (118) (令和元年6月事前伺い予定) マテリアル生産科学専攻 博士後期課程 (31) (令和元年6月事前伺い予定) ○学生募集の停止 工学研究科 生命先端工学専攻 博士前期課程 (廃止) (△ 85) 生命先端工学専攻 博士後期課程 (廃止) (△ 18) 応用化学専攻 博士前期課程 (△ 77) 応用化学専攻 博士後期課程 (△ 22) 精密科学・応用物理学専攻 博士前期課程 (△ 60) 精密科学・応用物理学専攻 博士後期課程 (△ 16) 知能・機能創成工学専攻 博士前期課程 (△ 32) 知能・機能創成工学専攻 博士後期課程 (△ 6) 機械工学専攻 博士前期課程 (△ 80) 機械工学専攻 博士後期課程 (△ 21) マテリアル生産科学専攻 博士前期課程 (△106) マテリアル生産科学専攻 博士後期課程 (△ 28) ※令和2年4月学生募集停止 ○専攻の名称変更 令和2年4月名称変更予定 工学研究科 電気電子情報工学専攻 → 電気電子情報通信工学専攻 博士前期課程 博士前期課程 電気電子情報工学専攻 → 電気電子情報通信工学専攻 博士後期課程 博士後期課程 環境・エネルギー工学専攻 → 環境エネルギー工学専攻 博士前期課程 博士前期課程 環境・エネルギー工学専攻 → 環境エネルギー工学専攻 博士後期課程 博士後期課程 ○入学定員の変更 工学研究科 電気電子情報通信工学専攻 博士前期課程 [定員減] (△2) (令和2年4月) 電気電子情報通信工学専攻 博士後期課程 [定員減] (△1) (令和2年4月) 環境エネルギー工学専攻 博士前期課程 [定員増] (6) (令和2年4月) 環境エネルギー工学専攻 博士後期課程 [定員増] (1) (令和2年4月) 地球総合工学専攻 博士前期課程 [定員増] (6) (令和2年4月) ビジネスエンジニアリング専攻 博士前期課程 [定員増] (5) (令和2年4月)							

教 育 課 程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数					卒業要件単位		
			講義	演習	実習	計				
	工学研究科 生物工学専攻 (博士前期課程)		50 科目	9 科目	7 科目	66 科目	30 単位			
	工学研究科 生物工学専攻 (博士後期課程)		5 科目	20 科目	2 科目	27 科目	6 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼 任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設分	工学研究科 生物工学専攻 (博士前期課程)	人 8 (8)	人 9 (9)	人 1 (1)	人 8 (8)	人 26 (26)	人 0 (0)	人 16 (17)	令和元年6月事前 伺い済み(予定)
		工学研究科 生物工学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	9 (9)	1 (1)	8 (8)	26 (26)	0 (0)	7 (8)	令和元年6月事前 伺い済み(予定)
		工学研究科 応用化学専攻 (博士前期課程)	20 (21)	20 (20)	3 (3)	11 (11)	54 (55)	0 (0)	22 (21)	令和元年6月事前 伺い済み(予定)
		工学研究科 応用化学専攻 (博士後期課程)	19 (21)	20 (20)	3 (3)	11 (11)	53 (55)	0 (0)	12 (13)	令和元年6月事前 伺い済み(予定)
		工学研究科 物理学系専攻 (博士前期課程)	13 (15)	11 (12)	0 (0)	13 (13)	37 (40)	0 (0)	30 (31)	令和元年6月事前 伺い済み(予定)
		工学研究科 物理学系専攻 (博士後期課程)	13 (15)	11 (12)	0 (0)	13 (13)	37 (40)	0 (0)	18 (19)	令和元年6月事前 伺い済み(予定)
		工学研究科 機械工学専攻 (博士前期課程)	20 (21)	13 (13)	6 (6)	14 (14)	53 (54)	0 (0)	16 (17)	令和元年6月事前 伺い済み(予定)
		工学研究科 機械工学専攻 (博士後期課程)	19 (21)	13 (13)	6 (6)	14 (14)	52 (54)	0 (0)	7 (8)	令和元年6月事前 伺い済み(予定)
		工学研究科 マテリアル生産 科学専攻 (博士前期課程)	23 (23)	28 (28)	5 (5)	22 (22)	78 (78)	0 (0)	34 (35)	令和元年6月事前 伺い済み(予定)
		工学研究科 マテリアル生産 科学専攻 (博士後期課程)	22 (23)	28 (28)	5 (5)	22 (22)	77 (78)	0 (0)	21 (22)	令和元年6月事前 伺い済み(予定)
		計	84 (88)	81 (82)	15 (15)	68 (68)	248 (253)	0 (0)	- (-)	
	既設分	文学研究科 文化形態論専攻 (博士前期課程)	18 (21)	8 (7)	3 (3)	6 (6)	35 (37)	0 (0)	34 (35)	
		文学研究科 文化形態論専攻 (博士後期課程)	18 (21)	8 (7)	3 (3)	6 (6)	35 (37)	0 (0)	34 (35)	
		文学研究科 文化表現論専攻 (博士前期課程)	15 (17)	17 (13)	1 (2)	5 (10)	38 (42)	0 (0)	47 (49)	
		文学研究科 文化表現論専攻 (博士後期課程)	15 (17)	17 (13)	1 (2)	5 (10)	38 (42)	0 (0)	47 (49)	
		文学研究科 文化動態論専攻 (修士課程)	9 (12)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	13 (16)	0 (0)	11 (12)	
		人間科学研究科 人間科学専攻 (博士前期課程)	43 (43)	21 (23)	1 (1)	13 (13)	78 (80)	0 (0)	5 (5)	
		人間科学研究科 人間科学専攻 (博士後期課程)	43 (43)	21 (23)	1 (1)	13 (13)	78 (80)	0 (0)	5 (5)	
		法学研究科 法学・政治学専攻 (博士前期課程)	21 (21)	7 (9)	0 (0)	4 (4)	32 (34)	1 (1)	3 (3)	
		法学研究科 法学・政治学専攻 (博士後期課程)	21 (21)	7 (9)	0 (0)	4 (4)	32 (34)	1 (1)	3 (3)	
		経済学研究科 経済学専攻 (博士前期課程)	18 (18)	5 (5)	3 (3)	1 (2)	27 (28)	0 (0)	44 (44)	
		経済学研究科 経済学専攻 (博士後期課程)	18 (18)	5 (5)	3 (3)	1 (2)	27 (28)	0 (0)	44 (44)	
		経済学研究科 経営学系専攻 (博士前期課程)	9 (9)	5 (5)	3 (3)	2 (2)	19 (19)	2 (2)	48 (48)	
		経済学研究科 経営学系専攻 (博士後期課程)	9 (9)	5 (5)	3 (3)	2 (2)	19 (19)	2 (2)	48 (44)	
		理学研究科 数学専攻 (博士前期課程)	15 (15)	14 (14)	1 (1)	9 (9)	39 (39)	0 (0)	35 (35)	
		理学研究科 数学専攻 (博士後期課程)	15 (15)	14 (14)	1 (1)	9 (9)	39 (39)	0 (0)	10 (10)	

		理学研究科 物理学専攻 (博士前期課程)	17 (17)	15 (15)	0 (0)	20 (20)	52 (52)	1 (1)	56 (56)	
		理学研究科 物理学専攻 (博士後期課程)	17 (17)	15 (15)	0 (0)	20 (20)	52 (52)	1 (1)	14 (14)	
		理学研究科 化学専攻 (博士前期課程)	15 (15)	7 (7)	9 (9)	21 (21)	52 (52)	0 (0)	33 (33)	
		理学研究科 化学専攻 (博士後期課程)	15 (15)	7 (7)	9 (9)	21 (21)	52 (52)	0 (0)	5 (5)	
		理学研究科 生物科学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	7 (7)	1 (1)	12 (12)	28 (28)	0 (0)	50 (50)	
		理学研究科 生物科学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	7 (7)	1 (1)	12 (12)	28 (28)	0 (0)	5 (5)	
		理学研究科 高分子科学専攻 (博士前期課程)	7 (7)	4 (4)	1 (1)	5 (5)	17 (17)	0 (0)	15 (15)	
		理学研究科 高分子科学専攻 (博士後期課程)	7 (7)	4 (4)	1 (1)	5 (5)	17 (17)	0 (0)	3 (3)	
		理学研究科 宇宙地球科学専攻 (博士前期課程)	10 (10)	12 (12)	0 (0)	9 (9)	31 (31)	0 (0)	13 (13)	
		理学研究科 宇宙地球科学専攻 (博士後期課程)	10 (10)	12 (12)	0 (0)	9 (9)	31 (31)	0 (0)	4 (4)	
		医学系研究科 医科学専攻 (博士前期課程)	14 (14)	8 (8)	1 (1)	20 (20)	43 (43)	0 (0)	9 (9)	
		医学系研究科 医学専攻 (博士後期課程)	113 (113)	80 (80)	61 (61)	91 (91)	345 (345)	0 (0)	9 (9)	
		大学院医学系研究科 保健学 専攻 (博士前期課程)	31 (31)	11 (11)	3 (4)	20 (20)	65 (66)	0 (0)	0 (0)	
		大学院医学系研究科 保健学 専攻 (博士後期課程)	31 (31)	11 (11)	3 (4)	20 (20)	65 (66)	0 (0)	0 (0)	
		歯学研究科 口腔科学専攻 (博士課程)	19 (21)	15 (15)	8 (8)	44 (45)	86 (89)	0 (0)	29 (30)	
		薬学研究科 創成薬学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	8 (8)	1 (1)	5 (5)	22 (22)	0 (0)	7 (7)	
		薬学研究科 創成薬学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	8 (8)	1 (1)	5 (5)	22 (22)	0 (0)	7 (7)	
		薬学研究科 医療薬学専攻 (博士課程)	7 (7)	8 (8)	3 (3)	9 (9)	27 (27)	0 (0)	7 (7)	
		工学研究科 電気電子情報通 信工学専攻 (博士前期課程)	25 (26)	26 (26)	3 (3)	20 (20)	74 (75)	0 (0)	8 (8)	令和元年 6 月名称 変更届出(予定)
		工学研究科 電気電子情報通 信工学専攻 (博士後期課程)	24 (26)	26 (26)	3 (3)	20 (20)	73 (75)	0 (0)	0 (0)	令和元年 6 月名称 変更届出(予定)
		工学研究科 環境エネルギー 工学専攻 (博士前期課程)	14 (14)	13 (13)	0 (0)	12 (12)	39 (39)	0 (0)	33 (33)	令和元年 6 月名称 変更届出(予定)
		工学研究科 環境エネルギー 工学専攻 (博士後期課程)	14 (14)	13 (13)	0 (0)	12 (12)	39 (39)	0 (0)	0 (0)	令和元年 6 月名称 変更届出(予定)
		工学研究科 地球総合工学専攻 (博士前期課程)	15 (18)	15 (15)	1 (1)	15 (15)	46 (49)	0 (0)	9 (9)	
		工学研究科 地球総合工学専攻 (博士後期課程)	13 (18)	15 (15)	1 (1)	15 (15)	44 (49)	0 (0)	0 (0)	

		工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻 (博士前期課程)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	34 (34)	
		工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻 (博士後期課程)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	
		基礎工学研究科 物質創成専攻 (博士前期課程)	21 (21)	2 (2)	19 (19)	22 (22)	64 (64)	1 (1)	54 (54)	
		基礎工学研究科 物質創成専攻 (博士後期課程)	21 (21)	2 (2)	19 (19)	22 (22)	64 (64)	1 (1)	54 (54)	
		基礎工学研究科 機能創成専攻 (博士前期課程)	12 (12)	2 (2)	8 (8)	17 (17)	39 (39)	0 (0)	54 (54)	
		基礎工学研究科 機能創成専攻 (博士後期課程)	12 (12)	2 (2)	8 (8)	17 (17)	39 (39)	0 (0)	54 (54)	
		基礎工学研究科 システム創成専攻 (博士前期課程)	22 (22)	5 (5)	15 (15)	22 (22)	64 (64)	0 (0)	54 (54)	
		基礎工学研究科 システム創成専攻 (博士後期課程)	22 (22)	5 (5)	15 (15)	22 (22)	64 (64)	0 (0)	54 (54)	
		言語文化研究科 言語文化専攻 (博士前期課程)	24 (24)	29 (29)	0 (0)	0 (0)	53 (53)	0 (0)	14 (14)	
		言語文化研究科 言語文化専攻 (博士後期課程)	24 (24)	29 (29)	0 (0)	0 (0)	43 (43)	0 (0)	6 (6)	
		言語文化研究科 言語社会専攻 (博士前期課程)	39 (39)	45 (45)	25 (25)	3 (3)	112 (112)	0 (0)	14 (15)	
		言語文化研究科 言語社会専攻 (博士後期課程)	39 (39)	28 (28)	15 (15)	0 (0)	82 (82)	0 (0)	3 (3)	
		言語文化研究科 日本語・日本文化専攻 (博士前期課程)	10 (10)	9 (9)	4 (4)	2 (2)	25 (25)	0 (0)	0 (1)	
		言語文化研究科 日本語・日本文化専攻 (博士後期課程)	10 (10)	9 (9)	2 (2)	0 (0)	21	0 (0)	0 (1)	
		国際公共政策研究科 国際公共政策専攻 (博士前期課程)	11 (11)	9 (9)	0 (0)	3 (3)	23 (23)	0 (0)	27 (27)	
		国際公共政策研究科 国際公共政策専攻 (博士後期課程)	11 (11)	9 (9)	0 (0)	3 (3)	23 (23)	0 (0)	27 (27)	
		国際公共政策研究科 比較公共政策専攻 (博士前期課程)	12 (12)	5 (5)	2 (2)	4 (4)	23 (23)	1 (1)	27 (27)	
		国際公共政策研究科 比較公共政策専攻 (博士後期課程)	12 (12)	5 (5)	2 (2)	4 (4)	23 (23)	1 (1)	27 (27)	
		情報科学研究科 情報基礎数学専攻 (博士前期課程)	6 (6)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	11 (11)	
		情報科学研究科 情報基礎数学専攻 (博士後期課程)	6 (6)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	11 (11)	
		情報科学研究科 情報数理学専攻 (博士前期課程)	5 (5)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	14 (14)	0 (0)	9 (9)	
		情報科学研究科 情報数理学専攻 (博士後期課程)	5 (5)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	14 (14)	0 (0)	9 (9)	
		情報科学研究科 コンピュータサイエンス専攻 (博士前期課程)	5 (5)	6 (6)	0 (0)	5 (5)	16 (16)	0 (0)	16 (16)	
		情報科学研究科 コンピュータサイエンス専攻 (博士後期課程)	5 (5)	6 (6)	0 (0)	5 (5)	16 (16)	0 (0)	16 (16)	

	情報科学研究科 情報システム工学専攻 (博士前期課程)	5 (5)	6 (6)	2 (2)	5 (5)	18 (18)	0 (0)	9 (9)
	情報科学研究科 情報システム工学専攻 (博士後期課程)	5 (5)	6 (6)	2 (2)	5 (5)	18 (18)	0 (0)	9 (9)
	情報科学研究科 情報ネットワーク工学専攻 (博士前期課程)	5 (5)	5 (5)	0 (0)	5 (5)	15 (15)	0 (0)	16 (16)
	情報科学研究科 情報ネットワーク工学専攻 (博士後期課程)	5 (5)	5 (5)	0 (0)	5 (5)	15 (15)	0 (0)	16 (16)
	情報科学研究科 マルチメディア工学専攻 (博士前期課程)	5 (5)	5 (5)	2 (2)	4 (4)	16 (16)	0 (0)	12 (12)
	情報科学研究科 マルチメディア工学専攻 (博士後期課程)	5 (5)	5 (5)	2 (2)	4 (4)	16 (16)	0 (0)	12 (12)
	情報科学研究科 ハイパフォーマンス情報工学専攻 (博士前期課程)	5 (5)	5 (5)	0 (0)	5 (5)	15 (15)	0 (0)	11 (11)
	情報科学研究科 ハイパフォーマンス情報工学専攻 (博士後期課程)	5 (5)	5 (5)	0 (0)	5 (5)	15 (15)	0 (0)	11 (11)
	生命機能研究科 生命機能専攻 (5年一貫制博士課程)	25 (26)	20 (20)	0 (0)	22 (22)	67 (68)	0 (0)	15 (15)
	高等司法研究科 法務専攻 (法科大学院)	15 (15)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	0 (0)
	大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学専攻 (博士後期課程)	15 (15)	10 (10)	5 (5)	22 (22)	52 (52)	0 (0)	58 (58)
	計	698 (713)	491 (490)	187 (189)	489 (496)	1,865 (1,888)	6 (6)	- (-)
	合計	782 (801)	572 (572)	202 (202)	557 (564)	2,113 (2,141)	0 (0)	- (-)

教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計	
	事務職員		938 人 (938 人)		1,800 人 (1,800 人)		2,738 人 (2,738 人)	
	技術職員		185 人 (185 人)		472 人 (472 人)		657 人 (657 人)	
	図書館専門職員		46 人 (46 人)		3 人 (3 人)		49 人 (49 人)	
	その他の職員		1,420 人 (1,420 人)		474 人 (474 人)		1,894 人 (1,894 人)	
	計		2,589 人 (2,589 人)		2,749 人 (2,749)		5,338 人 (5,338 人)	

校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	合計
	校 舎 敷 地	1,374,402 m ²	0 m ²	0 m ²	1,374,402 m ²
	運 動 場 用 地	122,795 m ²	0 m ²	0 m ²	122,795 m ²
	小 計	1,497,197 m ²	0 m ²	0 m ²	1,497,197 m ²
	そ の 他	126,456 m ²	0 m ²	0 m ²	126,456 m ²
	合 計	1,623,653 m ²	0 m ²	0 m ²	1,623,653 m ²

校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計
		1,079,495 m ² (1,079,495 m ²)	- m ² (- m ²)	- m ² (- m ²)	1,079,495 m ² (1,079,495 m ²)

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体
	355 室	179 室	429 室	23 室 (補助職員 10 人)	11 室 (補助職員 5 人)	

専任教員研究室				新設学部等の名称					室数			
				工学研究科生物工学専攻					26室			
図書・設備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での特定不能なため、大学全体の数(機械・器具、標本については工学研究科の数)	
	工学研究科生物工学専攻		3,883,931 [1,907,812] (3,883,931 [1,907,812])		89,878[52,955] (89,878[52,955])		15,850[14,500] (15,850[14,500])		6,631 37,387 0			
	工学研究科応用化学専攻											
	工学研究科物理学系専攻											
	工学研究科機械工学専攻											
	工学研究科マテリアル生産科学専攻											
	計		3,883,931 [1,907,812] (3,883,931 [1,907,812])		89,878[52,955] (89,878[52,955])		15,850[14,500] (15,850[14,500])		6,631 37,387 0			
図書館			面積		閲覧座席数			収納可能冊数			大学全体	
			39,149 m ²		3,534			2,995,272				
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					コート、プール、艇庫、弓道場、卓球場、体育管理棟、エアライフル場 アーチェリー場、トレーニングルーム、用具庫		
			10,956 m ²									
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による	
		教員1人当たり研究費等			-	-	-	-	-	-		
		共同研究費等			-	-	-	-	-	-		
		図書購入費		-	-	-	-	-	-	-		
		設備購入費		-	-	-	-	-	-	-		
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次		第4年次		第5年次		第6年次		
		-	-	-		-		-		-		
学生納付金以外の維持方法の概要					該当なし							
既設大学の状況	大 学 の 名 称		国立大学法人 大阪大学									
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地		
	文学部		年	人	年次人	人		倍				
	人文学科		4	165	-	660	学士（文学）	1.07 1.07	平成20年度	大阪府豊中市 待兼山町1番5号		
	人間科学部				3年次							
	人間科学科		4	137	10	568	学士（人間科学）	1.05 1.05	平成20年度	大阪府吹田市 山田丘1番2号		
	外国語学部				3年次							
	外国語学科		4	580	10	2,340	学士（言語・文化）	1.03 1.03	平成20年度	大阪府箕面市粟生間 谷東8丁目1番1号		
	法学部				3年次							
	法学科		4	170	10	700	学士（法学）	1.03 1.02	平成20年度	大阪府豊中市 待兼山町1番6号		
	国際公共政策学科		4	80	-	320		1.06				
	経済学部				3年次							
	経済・経営学科		4	220	10	900	学士（経済学）	1.05 1.05	平成20年度	大阪府豊中市 待兼山町1番7号		
	理学部											
	数学科		4	47	-	188	学士（理学）	1.06 1.04	平成20年度	大阪府豊中市 待兼山町1番1号		
	物理学科		4	76	-	304		1.06				
	化学科		4	77	-	308		1.04				
	生物科学科		4	55	-	220		1.09				
	医学部				2年次							
	医学科		6	100	10	650	学士（医学）	1.04 1.02	平成20年度	大阪府吹田市 山田丘2番2号		
	保健学科		4	160	20	680	学士（看護学） 学士（保健衛生学）	1.06		大阪府吹田市 山田丘1番7号		

	歯学部						1.00		大阪府吹田市	
	歯学科	6	53	-	318	学士（歯学）	1.00	平成 20 年度	山田丘 1 番 8 号	
	薬学部						1.06		大阪府吹田市	
	薬学科	6	25	-	150	学士（薬学）	1.07	平成 20 年度	山田丘 1 番 6 号	
	薬科学科	4	55	-	220	学士（薬科学）	-			令和元年度より学生募集停止
	工学部						1.04		大阪府吹田市	
	応用自然科学科	4	217	-	868	学士（工学）	1.05		山田丘 2 番 1 号	
	応用理工学科	4	248	-	992		1.04			
	電子情報工学科	4	162	-	648		1.02			
	環境・エネルギー工学科	4	75	-	300		1.07			
	基礎工学部						1.04			
	地球総合工学科	4	118	-	472		1.03		大阪府豊中市	
	電子物理科学科	4	99	-	396	学士（工学）	1.02	平成 20 年度	待兼山町 1 番 3 号	
	化学応用科学科	4	84	-	336		1.05			
	システム科学科	4	169	-	676		1.03			
	情報科学科	4	83	-	332		1.04			
	文学研究科								大阪府豊中市	
	文化形態論専攻							平成 20 年度	待兼山町 1 番 5 号	
	博士前期課程	2	38	-	76	修士（文学）	0.68			
	博士後期課程	3	20	-	60	博士（文学）	0.63			
	文化表現論専攻									
	博士前期課程	2	37	-	74	修士（文学）	1.26			
	博士後期課程	3	21	-	63	博士（文学）	1.08			
	文化動態論専攻									
	修士課程	2	19	-	38	修士（文学）	0.68			
	人間科学研究科								大阪府吹田市	
	人間科学専攻							平成 28 年度	山田丘 1 番 2 号	
	博士前期課程	2	89	-	178	修士（人間科学）	0.87			
	博士後期課程	3	42	-	126	博士（人間科学）	1.08			
	法学研究科								大阪府豊中市	
	法学・政治学専攻							平成 20 年度	待兼山町 1 番 6 号	
	博士前期課程	2	35	-	70	修士（法学）	1.07			
	博士後期課程	3	12	-	36	博士（法学）	0.94			
	経済学研究科								大阪府豊中市	
	経済学専攻								待兼山町 1 番 7 号	
	博士前期課程	2	50	-	100	修士（経済学） 修士（応用経済学） 修士（経営学）	1.08	平成 24 年度		
	博士後期課程	3	20	-	60	博士（経済学） 博士（応用経済学） 博士（経営学）	0.67	平成 26 年度		
	政策専攻									
	博士後期課程	3	-	-	-	博士（経済学） 博士（応用経済学） 博士（経営学）	-	平成 20 年度		平成 26 年度より学生募集停止
	経営学系専攻									
	博士前期課程	2	33	-	66	修士（経済学） 修士（応用経済学） 修士（経営学）	1.03	平成 20 年度		
	博士後期課程	3	5	-	15	博士（経済学） 博士（応用経済学） 博士（経営学）	1.33	平成 20 年度		
	理学研究科								大阪府豊中市	
	数学専攻							平成 20 年度	待兼山町 1 番 1 号	
	博士前期課程	2	32	-	64	修士（理学）	1.03			
	博士後期課程	3	16	-	48	博士（理学）	0.44			
	物理学専攻									
	博士前期課程	2	68	-	136	修士（理学）	0.93			
	博士後期課程	3	33	-	99	博士（理学）	0.57			

	化学専攻												
	博士前期課程	2	60	-	120	修士（理学）	1.18						
	博士後期課程	3	30	-	90	博士（理学）	0.88						
	生物科学専攻												
	博士前期課程	2	54	-	108	修士（理学）	1.26						
	博士後期課程	3	23	-	69	博士（理学）	0.61						
	高分子科学専攻												
	博士前期課程	2	24	-	48	修士（理学）	1.35						
	博士後期課程	3	11	-	33	博士（理学）	0.67						
	宇宙地球科学専攻												
	博士前期課程	2	28	-	56	修士（理学）	1.12						
	博士後期課程	3	13	-	39	博士（理学）	0.49						
	医学系研究科												
	予防環境医学専攻												
	博士課程	4	-	-	-	博士（医学）	-						
	内科系臨床医学専攻												
	博士課程	4	-	-	-	博士（医学）	-						
	医学専攻												
	博士課程	4	172		688	博士（医学）	1.05	平成 23 年度					
	医科学専攻												
	修士課程	2	20	-	40	修士（医科学） 修士（公衆衛生学）	1.35	平成 20 年度					
	保健学専攻												
	博士前期課程	2	81	-	146	修士（保健学） 修士（看護学）	1.16	平成 20 年度					
	博士後期課程	3	23	-	69	博士（保健学） 博士（看護学）	1.26						
	歯学研究科												
	統合機能口腔科学専攻					博士（歯学）		平成 20 年度					
	博士課程	4	-	-	-		-						
	口腔科学専攻							平成 24 年度					
	博士課程	4	55	-	220		0.95						
	薬学研究科												
	創成薬学専攻												
	博士前期課程	2	75	-	150	修士（薬科学）	0.95	平成 22 年度					
	博士後期課程	3	20	-	60	博士（薬科学）	1.05	平成 24 年度					
	医療薬学専攻							平成 24 年度					
	博士課程	4	10	-	40	博士（薬学）	0.38						
	工学研究科												
	生命先端工学専攻							平成 20 年度					
	博士前期課程	2	85	-	170	修士（工学）	0.85						
	博士後期課程	3	18	-	54	博士（工学）	0.94						
	応用化学専攻												
	博士前期課程	2	77	-	154	修士（工学）	1.06						
	博士後期課程	3	22	-	66	博士（工学）	0.97						
	精密科学・応用物理学 専攻												
	博士前期課程	2	60	-	120	修士（工学）	1.01						
	博士後期課程	3	16	-	48	博士（工学）	0.77						
	知能・機能創成工学専 攻												
	博士前期課程	2	32	-	64	修士（工学）	0.77						
	博士後期課程	3	6	-	18	博士（工学）	0.94						
	機械工学専攻												
	博士前期課程	2	80	-	160	修士（工学）	1.09						
	博士後期課程	3	21	-	63	博士（工学）	0.52						

大阪府吹田市
山田丘 2 番 2 号

平成 23 年
度より学生
募集停止
平成 23 年
度より学生
募集停止

大阪府吹田市山田丘
1 番 7 号

大阪府吹田市
山田丘 1 番 8 号

平成 24 年
度より学生
募集停止

大阪府吹田市
山田丘 1 番 6 号

大阪府吹田市
山田丘 2 番 1 号

[illegible]

名 称：医学部附属動物実験施設 目 的：医学系研究科及び医学部（以下「研究科等」という。）における実験動物の飼育管理並びに学内における動物実験に関する教育訓練、実験動物の系統保存・供給及び凍結胚保存を行うとともに、研究科等における動物実験及び学内における疾患関連遺伝子動物実験につき研究者の利用に供することを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘 2-1 5 設置年月：昭和 61 年 4 月 規模等：土地 1,147 m² 建物 6,348 m² 名 称：歯学部附属病院 目 的：患者の診療を通じて歯科医学の教育と研究を行う 所在地：吹田市山田丘 1-8 設置年月：昭和 28 年 8 月 規模等：土地 50,466 m² 建物 16,090 m² 名 称：歯学部附属歯科技工士学校 目 的：歯科技工士法(昭和 30 年法律第 168 号)第 14 条第 1 号の規定に基づき、歯科技工士として必要な知識及び技能を授けることを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 1-8 設置年月：昭和 35 年 4 月 規模等：土地 50,466 m² 建物 397 m² 名 称：人間科学研究科附属未来共創センター 目 的：学内及び国内外の教育研究機関等との連携の結節点としての役割を担うとともに多様な人材の活用により、新たな融合的学問領域の展開並びに学際的及び実践的な教育研究活動の強化を図ることを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘 1-2 設置年月：平成 28 年 4 月 規模等：土地 1,161 m² 建物 129 m² 名 称：人間科学研究科附属比較行動実験施設 目 的：行動の系統発生的及び個体発生的な比較研究並びにこれに必要な実験を行うことを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘 1-2 設置年月：昭和 55 年 4 月 規模等：土地 576 m² 建物 576 m² 名 称：理学研究科附属熱・エントロピー科学研究センター 目 的：熱、エントロピー測定による精密熱科学の展開と、新しい熱測定手法の開発を目指すとともに、積極的な国際連携研究を行うことを目的とする。 所在地：豊中市待兼山町 1-1 設置年月：平成 31 年 4 月 規模等：土地 258 m² 建物 530 m² 名 称：理学研究科附属基礎理学プロジェクト研究センター 目 的：専攻から独立した教育研究施設として、専攻及び部局の枠を超えた新たな学際的研究、挑戦的・独創的研究、基礎理学のプロジェクト研究並びにこれらの研究に係る産学官連携を推進することを目的とする。 所在地：豊中市待兼山町 1-1 設置年月：平成 23 年 10 月 規模等：土地 754 m² 建物 2,845 m² 名 称：理学研究科附属先端強磁場科学研究センター 目 的：超強磁場研究の将来を担う人材の育成を図るとともに、学内及び国内外の教育研究機関との共同研究を推進することにより、超強磁場、超高圧及び極低温の複合極限実験環境の創成を目指すことを目的とする。 所在地：豊中市待兼山町 1-1 設置年月：平成 26 年 4 月 規模等：土地 1,740 m² 建物 1,050 m² 名 称：医学系研究科附属共同研究実習センター 目 的：医学系研究科における高度な医学研究・教育用設備機器類を総合的に配置し、医学研究・教育の向上と充実を図ることを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 2-2 設置年月：昭和 62 年 5 月 規模等：土地 1,284 m² 建物 1,526 m² 名 称：医学系研究科附属ツインリサーチセンター

	目 的：双生児を対象に、人間の健康問題に関与する環境因子を解明し、予防医学の進展に寄与することを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 1－7 設置年月：平成 21 年 4 月 規模等：土地 25,957 m² 建物 4,390 m² 名 称：医学系研究科附属未来医療イメージングセンター 目 的：医学系研究科における放射線施設の安全管理及び放射性同位元素等を用いた教育研究を推進するとともに、PET(Positron Emission Tomography)による分子イメージング研究の向上と充実を図ることを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 2－4 設置年月：平成 28 年 6 月 規模等：土地 2,098 m² 建物 2,181 m² 名 称：医学系研究科附属最先端医療イノベーションセンター 目 的：産学官連携及びライフイノベーションを推進し、生体に備わる免疫系及び再生系に関する最先端的融合研究を結集させ、世界に類を見ない医薬等の融合療法を開発する拠点を整備することにより、健康社会の実現と地域経済の活性化を推進することを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 2－2 設置年月：平成 26 年 4 月 規模等：土地 2,317 m² 建物 11,170 m² 名 称：歯学研究科附属口腔科学フロンティアセンター 目 的：高度先端口腔科学の研究及び教育の遂行に資するため、高度な歯学研究・教育用設備機器類を総合的に配置し、歯学研究・教育の向上と充実を図り、歯学研究科の教員その他の者の共同利用の促進を図るとともに、学際センターとしての中心的な役割を果たすことを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 1－8 設置年月：平成 23 年 7 月 規模等：土地 50,466 m² 建物 672 m² 名 称：薬学研究科附属薬用植物園 目 的：園内に薬用植物を栽培して、学術研究及び教育に資することを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 1－6 設置年月：昭和 49 年 4 月 規模等：土地 680 m² 建物 960 m² 名 称：工学研究科附属超精密科学研究センター 目 的：物理・化学現象を原子・電子論的立場から思考する原子論の生産技術を継続的に創造し、これを基盤に工学研究科の新規な技術シーズを具現化して社会に還元する独創的な最先端生産技術を開発するとともに、その成果を世界に発信する創造性豊かな卓越した中核的研究拠点として、超精密科学の基礎と応用の研究及び教育を遂行することを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 2－1 設置年月：平成 13 年 4 月 規模等：土地 997 m² 建物 1,012 m² 名 称：工学研究科附属アトミックデザイン研究センター 目 的：原子・分子構造から、機能を持つ材料や構造の設計を意図した研究に関する新たな学問領域を創出し、産業への応用に寄与する研究を行うとともに、これらに関する教育を行うことを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 2－1 設置年月：平成 25 年 4 月 規模等：土地 1,118 m² 建物 1,620 m² 名 称：工学研究科附属構造・機能先進材料デザイン教育研究センター 目 的：材料工学の将来を担う国際性及び創造性を備えた若手人材の育成を図るとともに、学内及び国内外の教育研究機関との金属材料を主とした材料科学分野に関する共同研究を推進することにより、大阪大学を当該分野における教育研究の世界的拠点として発展させることを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 2－1 設置年月：平成 20 年 4 月 規模等：土地 28 m² 建物 28 m² 名 称：工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター 目 的：工学研究科の人材育成拠点として、将来のイノベーションを牽引する優れた若手人材の育成を強化するとともに、工学教育を通じた学際融合及び社会学連携を促進すること
--	---

	を目的とする。 所在地：吹田市山田丘 2－1 設置年月：平成 28 年 4 月 規模等：土地 199 m² 建物 271 m² 名 称：工学研究科附属フォトニクスセンター 目 的：工学研究科のフォトニクスに関する研究及び人材育成の拠点として、異分野融合を推進するとともに、産業の基盤となるフォトニクス研究の強化並びに産学官連携によるオープンイノベーション及び社会実装を実践することを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 2－1 設置年月：平成 29 年 4 月 規模等：土地 1,029 m² 建物 4,990 m² 名 称：基礎工学研究科附属極限科学センター 目 的：極限環境の生成及び計測による物質科学研究の深化並びにこれに基づく新材料及び新規デバイス・システムの創出を目指すとともに、共同研究を通じた国際的な研究を展開することを目的とする。 所在地：豊中市待兼山町 1－3 設置年月：平成 26 年 4 月 規模等：土地 6,467 m² 建物 29,133 m² （注）土地・建物は基礎工学研究科附属極限科学センターを含んだ基礎工学研究科本館の面積。 名 称：基礎工学研究科附属未来研究推進センター 目 的：領域横断及び異分野融合による萌芽研究を推進するとともに、他機関との研究連携を積極的に行い、新しい学術領域を創成することを目的とする。 所在地：豊中市待兼山町 1－3 設置年月：平成 26 年 4 月 規模等：土地 6,467 m² 建物 29,133 m² （注）土地・建物は基礎工学研究科附属未来研究推進センターを含んだ基礎工学研究科本館の面積。 名 称：基礎工学研究科附属スピントロニクス学術連携研究教育センター 目 的：国内外との共同利用・共同研究プロジェクトを通じて、世界トップレベルにある日本のスピントロニクス研究の国際競争力のさらなる向上、新産業の創成、現産業の強化及び人材育成プログラムの企画・実施により、地球規模の全人類的課題の解決及び独創性あふれる次世代研究者の育成を図ることを目的とする。 所在地：豊中市待兼山町 1－3 設置年月：平成 28 年 4 月 規模等：土地 6,467 m² 建物 29,133 m² （注）土地・建物は基礎工学研究科附属スピントロニクス学術連携研究教育センターを含んだ基礎工学研究科本館の面積。 名 称：基礎工学研究科附属産学連携センター 目 的：基礎工学研究科の研究成果を広く社会に展開するため、産業界と連携するとともに、教育面での交流を通して、研究者及び高度技術者の人材育成を図ることを目的とする。 所在地：豊中市待兼山町 1－3 設置年月：平成 29 年 4 月 規模等：土地 6,467 m² 建物 29,133 m² （注）土地・建物は基礎工学研究科附属産学連携センターを含んだ基礎工学研究科本館の面積。 名 称：大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科附属子どものこころの分子統御機構研究センター 目 的：子どものこころの発達に関する新しい診断法、治療法及び教育方法の開発を行うことを目的とする 所在地：吹田市山田丘 2－2 設置年月：平成 22 年 4 月 規模等：土地 997,110 m² 建物 42 m² （注）土地は大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科附属子どものこころの分子統御機構研究センターを含んだ吹田地区の面積。 名 称：微生物病研究所 目 的：微生物病及びがんその他の特定の難治疾患に関する学理並びにその応用の研究を行うことを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 3－1 設置年月：昭和 42 年 6 月 規模等：土地 7,057 m² 建物 31,415 m²	
--	---	--

名 称：微生物病研究所附属感染動物実験施設 目 的：感染、発癌その他の研究に必要な動物実験を行うことを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 3-1 設置年月：昭和 42 年 6 月 規模等：土地 1,626 m² 建物 4,901 m² 名 称：微生物病研究所附属難治感染症対策研究センター 目 的：難治感染症に対する病原体の同定、ワクチン開発、感染病態の解析及び治療法の開発 研究を行うとともに、病原性微生物の保存を行うことを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 3-1 設置年月：平成 17 年 4 月 規模等：土地 3,751 m² 建物 985 m² 名 称：微生物病研究所附属遺伝情報実験センター 目 的：高度の遺伝子解析技術の共同開発研究を行い、その技術を感染症・生体防御機構の研究 に応用するとともに、遺伝子操作に関する基本及び高度技術を利用し、及び提供す る施設として、学内外の研究者その他の者の共同利用に供することを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 3-1 設置年月：平成 17 年 4 月 規模等：土地 2,454 m² 建物 1,243 m² 名 称：微生物病研究所附属感染症国際研究センター 目 的：北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター、東京大学医科学研究所附属感染症国際 研究センター及び長崎大学熱帯医学研究所と連携し、感染症に対する先端的な医学・ 生物学の研究を行うとともに、感染症研究者の養成を図ることを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 3-1 設置年月：平成 17 年 4 月 規模等：土地 2,679 m² 建物 723 m² 名 称：産業科学研究所 目 的：自然科学に関する特殊事項で産業に必要なものの基礎的学理及びその応用の研究を目 的とする。 所在地：茨木市美穂ヶ丘 8-1 設置年月：昭和 14 年 4 月 規模等：土地 10,582 m² 建物 37,985 m² 名 称：産業科学研究所附属産業科学ナノテクノロジーセンター 目 的：ナノテクノロジーに特化した研究を格段に推進することを目的とする。 所在地：茨木市美穂ヶ丘 8-1 設置年月：平成 14 年 4 月 規模等：土地 1,132 m² 建物 6,254 m² 名 称：産業科学研究所附属総合解析センター 目 的：材料科学、情報科学及び生体科学に関する各種の分析及び測定を行うとともに、その 周辺技術に関する研究を行うことを目的とする。 所在地：茨木市美穂ヶ丘 8-1 設置年月：平成 21 年 4 月 規模等：土地 324 m² 建物 969 m² 名 称：産業科学研究所附属量子ビーム科学研究施設 目 的：量子ビームを用いた研究及びその関連基盤研究を推進し、電子線形加速器、コバルト 60 ガンマ線照射装置等の放射線関連設備の運営、維持及び運転並びに放射線安全管 理を行うことを目的とする。 所在地：茨木市美穂ヶ丘 8-1 設置年月：平成 21 年 4 月 規模等：土地 1,909 m² 建物 4,226 m² 名 称：蛋白質研究所 目 的：化学、生物、物理、医学などの様々な学問分野を基礎として、蛋白質の構造と機能の 基礎的研究を行い、それらに立脚してさまざまな高次生命機能を分子及び原子レベル で明らかにすることを目的とする。 所在地：大阪府吹田市山田丘 3-2 設置年月：昭和 33 年 4 月 規模等：土地 32,000 m² 建物 9,003 m² 名 称：蛋白質研究所附属蛋白質解析先端研究センター 目 的：革新的な蛋白質研究の手法及び装置を開発し、独創的な研究を推進する国際拠点を確 立することを目的とする。	
--	--

	所在地：大阪府吹田市山田丘 3-2 設置年月：平成 24 年 4 月 規模等：土地 32,000 m² 建物 2,384 m² (注) 土地は蛋白質研究所附属蛋白質解析先端研究センターを含んだ蛋白質研究所の面積。 名 称：社会経済研究所 目 的：社会が直面する様々な経済問題について世界中の経済学研究機関と競争かつ協調しながら世界トップレベルの理論的・実証的研究、政策分析、経済実験を行い、研究の過程で得られた新たな知見を広く国際社会に還元し、経済政策や制度設計に貢献することを目的とする。 所在地：茨木市美穂ヶ丘 6-1 設置年月：昭和 37 年 4 月 規模等：土地 7,978 m² 建物 2,996 m² 名 称：接合科学研究所 目 的：溶接・接合技術に関する基礎・応用研究を行うとともに、学内、他の大学及び研究機関の研究者の共同利用に供することを目的とする。 所在地：茨木市美穂ヶ丘 1 1-1 設置年月：昭和 47 年 5 月 溶接工学研究所として設置、平成 8 年 4 月 接合科学研究所に改組 規模等：土地 36,111 m² 建物 9,018 m² 名 称：接合科学研究所附属スマートプロセス研究センター 目 的：スマートプロセス科学と技術の新たな構築に関する基礎及び応用研究を行うことを目的とする。 所在地：茨木市美穂ヶ丘 1 1-1 設置年月：平成 15 年 4 月 規模等：土地 36,111 m² 建物 2,654 m² (注) 土地は接合科学研究所附属スマートプロセス研究センターを含んだ接合科学研究所の面積。 名 称：レーザー科学研究所 目 的：レーザー科学の基礎及び応用に関する研究及び教育を行うとともに、大学及び研究機関等の研究者の共同利用に供することを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 2-6 設置年月：平成 29 年 5 月 規模等：土地 13,540 m² 建物 29,088 m² 名 称：附属図書館 目 的：大阪大学の教育研究及び学習に必要な図書、学術雑誌、電子資料その他の学術情報資料を収集、整理、保存及び提供を行うことにより、本学における教育研究の進展に資するとともに、広く学術の発展に寄与することを目的とする。 所在地：(総合図書館) 豊中市待兼山町 1-4 (生命科学図書館) 吹田市山田丘 2-3 (理工学図書館) 吹田市山田丘 2-1 (外国学図書館) 箕面市栗生間谷東 8 丁目 1-1 設置年月：(総合図書館) 昭和 6 年 5 月 (生命科学図書館) 平成 4 年 4 月 (理工学図書館) 昭和 45 年 10 月 (外国学図書館) 平成 19 年 10 月 規模等：(総合図書館) 土地 8,635 m² 建物 19,848 m² (生命科学図書館) 土地 3,817 m² 建物 6,481 m² (理工学図書館) 土地 3,595 m² 建物 5,214 m² (外国学図書館) 土地 2,817 m² 建物 6,780 m² 名 称：低温センター 目 的：ヘリウム液化装置を含む学内共同利用の低温施設を整備してこれを管理運営し、学内各部局研究者の共同利用に供するとともに、学内の低温施設の整備及び運営を円滑にするため、センターを利用する部局の連絡調整を図ることを目的とする。 所在地：豊中市待兼山町 1-2 設置年月：昭和 46 年 4 月 規模等：土地 606 m² 建物 606 m² 名 称：超高压電子顕微鏡センター 目 的：超高压電子顕微鏡及びその関連設備を整備運用して、超高压電子顕微鏡による応用研究及びその周辺技術の開発を共同的に推進することを目的とする。 所在地：茨木市美穂ヶ丘 7-1 設置年月：昭和 49 年 4 月 規模等：土地 2,041 m² 建物 3,976 m²
--	---

名 称：環境安全研究管理センター

目 的：環境保全及び安全管理に関する研究及び教育を行うとともに、環境保全及び安全管理対策を立案し、実施することを目的とする。

所在地：吹田市山田丘 2-4

設置年月：平成 16 年 4 月

規模等：土地 292 m² 建物 559 m²

名 称：国際教育交流センター

目 的：学内共同教育研究施設として、国際教育及び国際交流に関する企画及び運営に参画するとともに、国際教育及び国際交流の実践並びにこれらに関連するテーマに係る調査及び研究を通じて大阪大学の国際化を推進することを目的とする。

所在地：吹田市山田丘 1-1

設置年月：平成 22 年 4 月

規模等：土地 854 m² 建物 1,225 m²

名 称：生物工学国際交流センター

目 的：生物工学の基礎と応用に関する研究を行うとともに、これに関連する領域について諸外国との学術交流を推進することを目的とする。

所在地：吹田市山田丘 2-1

設置年月：平成 7 年 4 月

規模等：土地 958 m² 建物 4,187 m²

名 称：太陽エネルギー化学研究センター

目 的：太陽エネルギーによる化学的な変換を研究するとともに、新しい太陽エネルギーの利用技術の開発を推進することを目的とする。

所在地：豊中市待兼山町 1-3

設置年月：平成 13 年 4 月

規模等：土地 291 m² 建物 528 m²

名 称：総合学術博物館

目 的：学内共同教育研究施設として、学術標本資料の収蔵、展示、公開及び教育研究の支援を行うとともに、学術標本資料の収集、活用、解析、情報化及び、博物館活動を推進するために必要な事項調査研究及び業務を目的とする。

所在地：大阪府豊中市待兼山町 1-20

設置年月：平成 14 年 4 月

規模等：土地 793 m² 建物 2,378 m²

名 称：キャンパスライフ健康支援センター

目 的：保健管理及び相談支援に関する専門的な業務、調査及び研究を行い、本学における学生及び職員の心身の健康教育並びに健康の保持及び増進を図るとともに、すべての学生の多面的成長を促すことを目的とする。

所在地：豊中市待兼山町 1-17

設置年月：平成 29 年 4 月

規模等：土地 1,578,824 m² 建物 2,416 m²

(注) 土地はキャンパスライフ健康支援センターを含んだ吹田、豊中、箕面地区の面積。

名 称：数理・データ科学教育研究センター

目 的：学内共同教育研究施設として、学内外の組織及び研究者と連携することにより、数理・データ科学技術に精通した金融・保険数理、数理モデル及びデータ科学分野の研究者及び実務家の養成を図り、当該学際融合分野の研究交流を推進するとともに、全学を対象とした学部教育を提供し、もって数理・データ科学に係る教育強化を実現することを目的とする。

所在地：豊中市待兼山町 1-3

設置年月：平成 27 年 10 月

規模等：土地 416 m² 建物 1,951 m²

(注) 土地・建物は数理・データ科学教育研究センターを含んだ基礎工学研究科 I 棟の面積。

名 称：科学機器リノベーション・工作支援センター

目 的：学内共同教育研究施設として、全学的な有効活用に資するため、国立大学法人大阪大学における設備整備に関するマスタープランに基づき、大阪大学における教育又は研究に必要な設備、機器等の再利用及び共同利用を促進するとともに、実験装置の試作、改造、修理等を行うことにより本学における教育研究環境の計画的かつ効率的な整備充実を図ることを目的とする。

所在地：(豊中地区) 豊中市待兼山町 1-2

(吹田地区) 茨木市美穂ヶ丘 8-1

設置年月：平成 26 年 4 月

規模等：(豊中地区) 土地 441,313 m² 建物 1,332 m²

	(吹田地区) 土地 997, 110 m² 建物 55 m² (注). 土地は科学機器リノベーション・工作支援センターを含んだ各地区の面積。 名 称：日本語日本文化教育センター 目 的：外国人留学生等に対する日本語及び日本文化等の教育並びにこれに必要な調査研究を実施するとともに、国際的な教育連携を図り、世界の日本語日本文化教育の充実発展に寄与することを目的とする。 所在地：箕面市栗生間谷東 8－1－1 設置年月：昭和 29 年 4 月（平成 17 年 4 月 現センターへ改称） 規模等：土地 1, 014 m² 建物 3, 959 m² 名 称：ナノサイエンスデザイン教育研究センター 目 的：学内共同教育研究施設として、学内外の組織及び研究者と連携し、ナノサイエンス・ナノテクノロジー分野の飛躍的発展のために理工系の横断・連携・融合領域に関する各種教育研究プログラムを企画し、及び実施するとともに、ナノサイエンス・ナノテクノロジー分野に精通した理工系の研究者及び技術者の人材育成を図ることを目的とする。 所在地：豊中市待兼山町 1－3 設置年月：平成 20 年 12 月 規模等：土地 1, 131 m² 建物 7, 374 m² (注) 土地・建物はナノサイエンスデザイン教育研究センターを含んだ文理融合型研究棟の面積。 名 称：核物理研究センター 目 的：原子核物理学の基礎及び応用研究を行うとともに、国際共同利用・共同研究拠点として国内外の大学その他の研究機関の研究者の共同利用に供することを目的とする。 所在地：茨木市美穂ヶ丘 1 0－1 設置年月：昭和 46 年 4 月 規模等：土地 10, 183 m² 建物 17, 823 m² 名 称：サイバーメディアセンター 目 的：全国共同利用施設として、情報処理技術基盤の整備、提供及び研究開発、情報基盤に支えられた高度な教育の実践並びに知的資源の電子的管理及び提供を行うこと、全学的な支援として、本学の情報基盤の整備、情報化の推進及び情報サービスの高度化を図り、それらを活用して先進的な教育活動を推進すること並びに高度情報化社会を支える基盤研究を行うことを目的とする。 所在地：茨木市美穂ヶ丘 5－1 設置年月：平成 12 年 4 月 規模等：土地 4, 418 m² 建物 15, 305 m² 名 称：免疫学フロンティア研究センター 目 的：免疫学とイメージング技術の融合を通して、免疫系を構成する個々の細胞の特性や相互作用を解析するとともに、免疫細胞動態の制御を基盤とした免疫操作技術を開発し、もって感染症、自己免疫疾患、アレルギー疾患、がんその他の重大な疾患に対する新たな免疫療法の確立を図ることを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 3－1 設置年月：平成 19 年 10 月 規模等：土地 1, 508. 58 m² 建物 9, 066. 9 m² 名 称：大阪大学・情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター 目 的：今後の新たな研究領域として発展が期待される脳情報通信分野において、国立研究開発法人情報通信研究機構等関係機関との連携及び協力のもと、世界最高水準の先進的な融合研究を推進することを目的とする。 所在地：吹田市山田丘 1－4 設置年月：平成 25 年 4 月 規模等：土地 1, 611. 06 m² 建物 9, 818. 83 m²（大阪大学分 2, 723. 11 m²）	
--	---	--

教育課程等の概要（事前伺い）

（工学研究科 生物工学専攻 博士前期課程）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門 教育 科目	生物資源工学A	1①		1		○			1	1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物資源工学B	1②		1		○			1	1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	ゲノム機能工学	1③④		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	微生物学特論A	1①		1		○			1		1			高度国際性涵養教育科目として履修可
	微生物学特論B	1②		1		○			1		1			高度国際性涵養教育科目として履修可
	分子微生物学	1①②		2		○				1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	ナノバイオテクノロジー特論A	1①		1		○			1	1		2		高度国際性涵養教育科目として履修可
	ナノバイオテクノロジー特論B	1②		1		○			1	1		2		高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学A	1①		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学B	1②		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞工学特論A	1①		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞工学特論B	1②		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物化学工学特論	1①②		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	生命環境システム工学特論	1③④		2		○			1	1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生命工学	1③④		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	バイオテクノロジー特論	1通		2		○			8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞製造論	1①②		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物工学ゼミナールⅠ	1通	2				○		8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物工学ゼミナールⅡ	2通		2			○		8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物工学実験	1①②	2					○	8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	産業技術論	1①②	2			○								兼8
	インターンシップ・オン・キャンパス1	1①②	4					○	8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	インターンシップ・オン・キャンパス2	2③④	4					○	8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	応用生物工学A	1③		1		○			8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	応用生物工学B	1④		1		○			8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物プロセス工学	1③④		2		○			2	2				高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅠ	1③④		1			○		8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅡ	1①②		1			○		8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅢ	2③④		1			○		8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅣ	2①②		1			○		8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー実験Ⅰ	1③④		4				○	8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー実験Ⅱ	1①②		4				○	8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可

	特別課題演習	1通・2通	4				○		8	9	1	9	高度国際性涵養教育科目として履修可 集中
	安全工学	1通・2通	1				○		8	9	1	9	高度国際性涵養教育科目として履修可 集中
	工学日本語Ⅰ	1③④		1			○		1				
	工学日本語Ⅱ	1①②		1			○		1				
	ESP バイオテクノロジーA	1③④		1			○		8	9	1	9	高度国際性涵養教育科目として履修可
	ESP バイオテクノロジーB	1①②		1			○		8	9	1	9	高度国際性涵養教育科目として履修可
	ESP先端化学A	1③④		1			○		8	9	1	9	高度国際性涵養教育科目として履修可 集中
	ESP先端化学B	1①②		1			○		8	9	1	9	高度国際性涵養教育科目として履修可 集中
	海外フィールドスタディS	1①②		1				○	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	生命先端工学特論Ⅱ	1③④		2			○		1				集中
	小計（42科目）	—	19	51	0		—		8	9	1	9	0 兼8
高度国際性 涵養教育科目	工学英語Ⅰ	1①②		2			○						兼4
	工学英語Ⅱ	1③④		2			○						兼4
	OJE方式による演習Ⅰ	1③④・ 2①②		2				○					兼4
	OJE方式による演習Ⅱ	1通		2				○					兼4
	インターンシップ	1③④・ 2①②		1					○				兼4 集中
	ビジネス日本語Ⅰ	1①②		2			○						兼4
	ビジネス日本語Ⅱ	1③④		2			○						兼4
	小計（7科目）	—	0	13	0		—		0	0	0	0	0 兼5
高度教育科目	生命先端工学特論Ⅰ	1①②		2			○						兼4 集中
	先端バイオテクノロジー特論Ⅰ	1③④		2			○		8	9	1	9	
	先端バイオテクノロジー特論Ⅱ	1①②		2			○		8	9	1	9	
	小計（3科目）	—	0	6	0		—		8	9	1	9	0 兼4
合計（52科目）		—	19	70	0		—		8	9	1	9	0 兼17
学位又は称号		修士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係					
卒業要件及び履修方法								授業期間等					
生物工学専攻博士前期課程に2年以上在学し、各コース等（生物工学コース、生物工学ダブルディグリープログラム、産学官共創コース、バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム）の定める修了要件を満たすこと。								1 学年の学期区分		4 学期			
								1 学期の授業期間		8 週			
								1 時限の授業時間		9 0 分			

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 伺 い ）

（工学研究科 生物工学専攻 博士前期課程 生物工学コース、生物工学ダブルディグリープログラム）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門 教育 科目	生物資源工学A	1①		1		○			1	1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物資源工学B	1②		1		○			1	1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	ゲノム機能工学	1③④		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	微生物学特論A	1①		1		○			1		1			高度国際性涵養教育科目として履修可
	微生物学特論B	1②		1		○			1		1			高度国際性涵養教育科目として履修可
	分子微生物学	1①②		2		○				1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	ナノバイオテクノロジー特論A	1①		1		○			1	1		2		高度国際性涵養教育科目として履修可
	ナノバイオテクノロジー特論B	1②		1		○			1	1		2		高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学A	1①		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学B	1②		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞工学特論A	1①		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞工学特論B	1②		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物化学工学特論	1①②		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	生命環境システム工学特論	1③④		2		○			1	1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生命工学	1③④		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	バイオテクノロジー特論	1通		2		○			8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞製造論	1①②		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物工学ゼミナールⅠ	1通	2				○		8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物工学ゼミナールⅡ	2通		2			○		8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物工学実験	1①②	2					○	8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生命先端工学特論Ⅱ	1③④		2		○			1					集中
	海外フィールドスタディS	1①②		1				○	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	小計（22科目）	—	4	29	0	—			8	9	1	9	0	
高度 国際性 涵養 教育 科目	工学英語Ⅰ	1①②		2		○								兼4
	工学英語Ⅱ	1③④		2		○								兼4
	OJE方式による演習Ⅰ	1③④・ 2①②		2			○							兼4
	OJE方式による演習Ⅱ	1通		2			○							兼4
	インターンシップ	1③④・ 2①②		1				○						兼4 集中
	ビジネス日本語Ⅰ	1①②		2		○								兼4
	ビジネス日本語Ⅱ	1③④		2		○								兼4
	小計（7科目）	—	0	13	0	—			0	0	0	0	0	兼5
高度 教育 科目 養	生命先端工学特論Ⅰ	1①②		2		○								兼4 集中
	小計（1科目）	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼4
合計（30科目）		—	4	44	0	—			8	9	1	9	0	兼8

学位又は称号	修士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
（生物工学コース、生物工学ダブルディグリープログラム） 上記科目から必修科目 4 単位を含めて14単位以上、専門教育科目から24単位、高度国際性涵養教育科目から4単位及び高度教養教育科目から2単位以上を含み、合計30単位以上を修得し、修士論文の審査に合格すること。 なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、高度国際性涵養教育科目の単位として算入し、必要単位を超える分は専門教育科目の単位として算入する。 ただし、工学英語I・II、OJE方式による演習 I・II、インターンシップ及びビジネス日本語I・IIは、上記科目から必修科目 4 単位を含めて14単位以上の中には含まれないので注意すること。		1 学年の学期区分	4 学期
		1 学期の授業期間	8 週
		1 時限の授業時間	9 0 分

教育課程等の概要（事前伺い）

（工学研究科 生物工学専攻 博士前期課程 産学官共創コース）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	研究力科目類	生物資源工学A	1①		1		○			1	1			1	高度国際性涵養教育科目として履修可	
		生物資源工学B	1②		1		○			1	1			1	高度国際性涵養教育科目として履修可	
		ゲノム機能工学	1③④		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可	
		微生物学特論A	1①		1		○			1		1			高度国際性涵養教育科目として履修可	
		微生物学特論B	1②		1		○			1		1			高度国際性涵養教育科目として履修可	
		分子微生物学	1①②		2		○				1				高度国際性涵養教育科目として履修可	
		ナノバイオテクノロジー特論A	1①		1		○			1	1			2	高度国際性涵養教育科目として履修可	
		ナノバイオテクノロジー特論B	1②		1		○			1	1			2	高度国際性涵養教育科目として履修可	
		細胞動態学A	1①		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可	
		細胞動態学B	1②		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可	
		細胞工学特論A	1①		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可	
		細胞工学特論B	1②		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可	
		生物化学工学特論	1①②		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可	
		生命環境システム工学特論	1③④		2		○			1	1			1	高度国際性涵養教育科目として履修可	
		生命工学	1③④		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可	
		バイオテクノロジー特論	1通		2		○			8	9	1		9	高度国際性涵養教育科目として履修可	
		細胞製造論	1①②		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可	
		生物学ゼミナールⅠ	1通	2				○		8	9	1		9		
		生物学ゼミナールⅡ	2通		2			○		8	9	1		9		
		生物学実験	1①②	2					○	8	9	1		9		
		生命先端工学特論Ⅱ	1③④		2		○			1					集中	
		海外フィールドスタディS	1①②		1				○	1					高度国際性涵養教育科目として履修可	
	科目俯瞰力	産業技術論	1①②	2			○								兼8	
	科目実践力	インターンシップ・オン・キャンパス1	1①②	4					○	8	9	1		9		
		インターンシップ・オン・キャンパス2	2③④	4					○	8	9	1		9		
	小計 (25科目)		—	14	29	0	—			8	9	1		9	0	兼8
高度国際性涵養教育科目		工学英語Ⅰ	1①②		2		○								兼4	
		工学英語Ⅱ	1③④		2		○								兼4	
		OJE方式による演習Ⅰ	1③④・2①②		2			○							兼4	
		OJE方式による演習Ⅱ	1通		2			○							兼4	
		インターンシップ	1③④・2①②		1				○						兼4 集中	
		ビジネス日本語Ⅰ	1①②		2		○								兼4	
		ビジネス日本語Ⅱ	1③④		2		○								兼4	
	小計 (7科目)		—	0	13	0	—			0	0	0		0	兼5	

教 高 育 度 科 教 目 養		生命先端工学特論Ⅰ	1 ①②		2		○								兼 4 集中
	小計（1科目）		—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼 4
合計（33科目）			—	14	44	0	—			8	9	1	9	0	兼17
学位又は称号		修士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係							
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等							
（産学官共創コース） 科目の区分として俯瞰力科目類、実践力科目類、研究力科目類を設ける。 俯瞰力科目類及び実践力科目類として産業技術論、インターンシップ・オン・キャンパス1・2の必修科目10単位及び、研究力科目類として生物工学コース又は生物工学ダブルディグリープログラムの開設する専門教育科目において必修科目 4 単位を含め20単位以上、専門教育科目から26単位、高度国際性涵養教育科目から 2 単位及び高度教養教育科目から 2 単位以上を含み、全体で30単位以上を修得し、修士論文の審査に合格すること。 なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、高度国際性涵養教育科目の単位として算入し、必要単位を超える分は専門教育科目の単位として算入する。 ただし、工学英語Ⅰ・Ⅱ、OJE方式による演習Ⅰ・Ⅱ、インターンシップ及びビジネス日本語Ⅰ・Ⅱは、上記の必修科目 4 単位を含めて20単位以上の中には含まれないので注意すること。								1 学年の学期区分		4 学期					
								1 学期の授業期間		8 週					
								1 時限の授業時間		9 0 分					

教育課程等の概要（事前伺い）

（工学研究科 生物工学専攻 博士前期課程 バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門 教育 科目	生物資源工学A	1①		1		○			1	1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物資源工学B	1②		1		○			1	1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	ゲノム機能工学	1③④		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	微生物学特論A	1①		1		○			1		1			高度国際性涵養教育科目として履修可
	微生物学特論B	1②		1		○			1		1			高度国際性涵養教育科目として履修可
	分子微生物学	1①②		2		○				1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	ナノバイオテクノロジー特論A	1①		1		○			1	1		2		高度国際性涵養教育科目として履修可
	ナノバイオテクノロジー特論B	1②		1		○			1	1		2		高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学A	1①		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学B	1②		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞工学特論A	1①		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞工学特論B	1②		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	生命環境システム工学特論	1③④		2		○			1	1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生命工学	1③④		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	応用生物工学A	1③		1		○			8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	応用生物工学B	1④		1		○			8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物プロセス工学	1③④		2		○			2	2				高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅠ	1③④		1			○		8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅡ	1①②		1			○		8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅢ	2③④		1			○		8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅣ	2①②		1			○		8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー実験Ⅰ	1③④		4				○	8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー実験Ⅱ	1①②		4				○	8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	特別課題演習	1通・2通	4				○		8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可 集中
	安全工学	1通・2通	1			○			8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可 集中
	工学日本語Ⅰ	1③④		1		○			1					
	工学日本語Ⅱ	1①②		1		○			1					
	ESP バイオテクノロジーA	1③④		1		○			8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	ESP バイオテクノロジーB	1①②		1		○			8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可
	ESP先端化学A	1③④		1		○			8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可 集中
	ESP先端化学B	1①②		1		○			8	9	1	9		高度国際性涵養教育科目として履修可 集中
	小計（31科目）	—	5	40	0	—			8	9	1	9	0	

教 高 育 度 科 教 目 養	先端バイオテクノロジー特論Ⅰ	1③④		2		○			8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジー特論Ⅱ	1①②		2		○			8	9	1	9		
	小計（2科目）	—	0	4	0	—			8	9	1	9	0	
	合計（33科目）	—	5	44	0	—			8	9	1	9	0	
学位又は称号		修士（工学）		学位又は学科の分野		工学関係								
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法									授業期間等					
（バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム） 上記科目から必修科目4単位を含めて14単位以上、専門教育科目から26単位、高度国際性涵養教育科目から2単位及び高度教養教育科目から2単位以上を含み、合計30単位以上を修得し、修士論文の審査に合格すること。 なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、高度国際性涵養教育科目の単位として算入し、必要単位を超える分は専門教育科目の単位として算入する。									1 学年の学期区分			4 学期		
									1 学期の授業期間			8 週		
									1 時限の授業時間			9 0 分		

教育課程等の概要（事前伺い）

（工学研究科 生物工学専攻 博士後期課程）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門 教育 科目	生物機能工学特論Ⅰ	1①②		2		○			8	9	1	9		兼8
	生物機能工学特論Ⅱ	1③④		2		○			8	9	1	9		
	生命反応工学特論Ⅰ	1①②		2		○			8	9	1	9		
	生命反応工学特論Ⅱ	1③④		2		○			8	9	1	9		
	生物工学ゼミナールⅢ	1①②		1			○		8	9	1	9		
	生物工学ゼミナールⅣ	1③④		1			○		8	9	1	9		
	生物工学ゼミナールⅤ	2①②		1			○		8	9	1	9		
	生物工学ゼミナールⅥ	2③④		1			○		8	9	1	9		
	生物工学ゼミナールⅦ	3①②		1			○		8	9	1	9		
	生物工学ゼミナールⅧ	3③④		1			○		8	9	1	9		
	海外フィールドスタディS	1①②		1				○	1					
	産業技術論特論	1①②		2		○								
	インターンシップ・オン・キャンパス特論	1通		4				○	8	9	1	9		
	研究企画ゼミナール	1③④	2				○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジー演習Ⅰ	1③④		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジー演習Ⅱ	1①②		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジー演習Ⅲ	2③④		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジー演習Ⅳ	2①②		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジー演習Ⅴ	3③④		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジー演習Ⅵ	3①②		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅤ	1③④		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅥ	1①②		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅦ	2③④		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅧ	2①②		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅨ	3③④		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅩ	3①②		1			○		8	9	1	9		
合計（26科目）		—	2	33	0	—			8	9	1	9	0	兼8
学位又は称号		博士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
生物工学専攻博士後期課程に3年以上在学し、各コース等（生物工学コース、生物工学ダブルディグリープログラム、産学官共創コース、バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム）の定める修了要件を満たすこと。								1 学年の学期区分			4 学期			
								1 学期の授業期間			8 週			
								1 時限の授業時間			9 0 分			

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 伺 い ）														
（工学研究科 生物工学専攻 博士後期課程 生物工学コース、生物工学ダブルディグリープログラム）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門 教育 科目	生物機能工学特論Ⅰ	1①②		2		○			8	9	1	9		
	生物機能工学特論Ⅱ	1③④		2		○			8	9	1	9		
	生命反応工学特論Ⅰ	1①②		2		○			8	9	1	9		
	生命反応工学特論Ⅱ	1③④		2		○			8	9	1	9		
	生物工学ゼミナールⅢ	1①②		1			○		8	9	1	9		
	生物工学ゼミナールⅣ	1③④		1			○		8	9	1	9		
	生物工学ゼミナールⅤ	2①②		1			○		8	9	1	9		
	生物工学ゼミナールⅥ	2③④		1			○		8	9	1	9		
	生物工学ゼミナールⅦ	3①②		1			○		8	9	1	9		
	生物工学ゼミナールⅧ	3③④		1			○		8	9	1	9		
	海外フィールドスタディS	1①②		1				○	1					
合計（11科目）		－	0	15	0	－			8	9	1	9	0	
学位又は称号		博士（工学）		学位又は学科の分野				工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
（生物工学コース、生物工学ダブルディグリープログラム） 上記科目から6単位以上を修得し、博士論文の審査に合格すること。 なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、専門教育科目の単位として算入する。								1 学年の学期区分				4 学期		
								1 学期の授業期間				8 週		
								1 時限の授業時間				9 0 分		

教育課程等の概要（事前伺い）

（工学研究科 生物工学専攻 博士後期課程 産学官共創コース）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門 教育 科目	生物機能工学特論Ⅰ	1①②		2		○			8	9	1	9		兼8
	生物機能工学特論Ⅱ	1③④		2		○			8	9	1	9		
	生命反応工学特論Ⅰ	1①②		2		○			8	9	1	9		
	生命反応工学特論Ⅱ	1③④		2		○			8	9	1	9		
	生物工学ゼミナールⅢ	1①②		1			○		8	9	1	9		
	生物工学ゼミナールⅣ	1③④		1			○		8	9	1	9		
	生物工学ゼミナールⅤ	2①②		1			○		8	9	1	9		
	生物工学ゼミナールⅥ	2③④		1			○		8	9	1	9		
	生物工学ゼミナールⅦ	3①②		1			○		8	9	1	9		
	生物工学ゼミナールⅧ	3③④		1			○		8	9	1	9		
	海外フィールドスタディS	1①②		1				○	1					
	産業技術論特論	1①②		2		○								
	インターンシップ・オン・キャンパス特論	1通		4				○	8	9	1	9		
合計（13科目）		－	0	21	0	－			8	9	1	9	0	兼8
学位又は称号		博士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
（生物工学産学官共創コース） 産業技術論特論、インターンシップ・オン・キャンパス特論から4単位以上、生物工学コース又は生物工学ダブルディグリープログラムの開設科目を含め6単位以上を修得し、博士論文の審査に合格すること。 なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、専門教育科目の単位として算入する。								1学年の学期区分				4学期		
								1学期の授業期間				8週		
								1時限の授業時間				90分		

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 伺 い ）														
(工学研究科 生物工学専攻 博士後期課程 バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門 教育 科目	研究企画ゼミナール	1③④	2				○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジー演習Ⅰ	1③④		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジー演習Ⅱ	1①②		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジー演習Ⅲ	2③④		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジー演習Ⅳ	2①②		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジー演習Ⅴ	3③④		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジー演習Ⅵ	3①②		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅤ	1③④		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅥ	1①②		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅦ	2③④		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅧ	2①②		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅨ	3③④		1			○		8	9	1	9		
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅩ	3①②		1			○		8	9	1	9		
	合計（13科目）		—	2	12	0	—			8	9	1	9	0
学位又は称号		博士（工学）		学位又は学科の分野				工学関係						
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授 業 期 間 等						
(バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム) 上記科目から必修単位の2単位を含め6単位以上を修得し、博士論文の審査に合格すること。 なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、専門教育科目の単位として算入する。								1 学年の学期区分				4 学期		
								1 学期の授業期間				8 週		
								1 時限の授業時間				90 分		